

# 安全報告

企業ステートメント

保安防災・労働安全・物流安全

化学品・製品安全

クラレグループ行動規範

コンプライアンス・  
ハンドブック

トップステートメント

サステナビリティ  
マネジメント

安全報告

保安防災・労働安全・  
物流安全

化学品・製品安全

環境報告

社会性報告

コーポレート・  
ガバナンス

GRIスタンダード対照表  
(内容索引)

クラレレポート /  
バックナンバー

ランドセルは海を越えて

## 安全に関する考え方

クラレグループの事業活動において、「安全」はすべての礎となる絶対条件です。「安心して働ける会社、事故や災害が起こらない安全な会社」の実現は、製品の安定供給を維持するためにも、社会から信頼され続けるためにも必要な重要テーマと言えます。

そうした考えのもと、クラレグループは安全のマネジメントシステムを構築・運用し、様々な活動を行っています。社員の安全意識を高め、安全行動・確認が仕事をする上での「当たり前」のこととして定着させるために、さまざまな取り組みを推進しています。

各現場では、リスクアセスメント活動を通して保安防災・労働安全リスクを発見し、設備の本質的な安全対策を進め、その発生防止を図っています。また万が一、事故・災害が発生した場合に備え、被害を最小限に抑えるための訓練や事故の事例、教訓などの情報共有化や対策の水平展開などにより再発防止に努めています。

安全に関する行動原則

『安全はすべての礎』

安全に関する行動方針（2019年度）

1. 「安全第一、生産（工事、開発）第二」を徹底すること
2. 行動前後の「確認」を徹底すること
3. 全員が自らの責任として無事故・無災害を目指し、行動すること

## 安全活動マネジメント

「安全活動マネジメント規定」に基づき、年度ごとに計画を立て、保安防災・労働安全に取り組んでいます。具体的には、社長および担当役員が出席する安全推進会議で、当年度の安全活動実績の総括評価と次年度の活動方針策定を行い、その方針を各事業所・部署の活動計画に反映させ、実行しています。計画立案と活動の状況、成果については、国内の各事業所の現場には安全担当役員を含む本社安全スタッフが年2



回訪問して検証を行い、海外関係会社には、3年に1回を目途に本社スタッフが現地を訪問して確認を行っています。現場での検証から得られた課題やその年の安全成績などをもとに実績の総括評価を行い、翌年の全社の方針策定に反映させて安全活動のマネジメントシステムを動かしています。

2018年には、グローバル対応の安全活動マネジメントシステムを構築し、運用を開始しました。その効果を高めるべく環境安全の理念・方針の共有を目的にして岡山事業所に国内外の環境安全担当者を集めたグローバルミーティングを開催し、夫々の安全活動の紹介及び意見交換を行いました。次年度以降も開催を計画しています。



西条事業所での安全活動の検証の様子

## 保安防災・労働安全の安全重点活動

評価 ○：達成 △：さらに取り組みが必要 ×：未達

	2018年度			2019年度活動項目
	目標	実績	評価	
保安防災 労働安全	安全活動と業務との一体化の推進	形式的な活動を見直し効率化を図るとともに、日々の業務（作業）の流れの中への安全活動の取り込みが進んだ。	○～△	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の不用意・無意識行動に起因する労働災害の防止</li> <li>能動的な安全活動への転換</li> <li>現場の「違和感」の発見による職場（設備、作業）改善の推進</li> <li>確認の徹底による事故・トラブルの防止</li> <li>保安防災上の潜在リスクの発掘と顕在リスクの極小化対策の実施</li> <li>グローバル管理体制の確実な運用</li> </ul>
	安全活動への納得感の醸成	個人面談などを通じて活動目的の理解を図るとともに、自ら考え、活動に能動的に関与する工夫を行うことで取り組みへの参加意識が高まった。	○～△	
	潜在リスクの発掘と顕在リスクの極小化対策の実施	準備作業、隙間作業、故障・トラブルなどを切り口にしたリスク抽出とその対応が定着してきた。緊急時に対する訓練の充実を図り、異常の判断基準の明確化が進んだ。	○	
	個人の不安全・無意識行動に由来する災害の防止	指差呼称を中心に、行動を起こす前の一呼吸おいた確認の徹底を図った。しかし個人の不用意・無意識な行動による災害が多く発生しており、継続した取り組みが必要。	△	
	グローバル管理体制の構築と運用	グローバル対応の安全活動マネジメントシステムを構築し運用開始した。4月には国内外の安全担当者を岡山に集めてグローバル会議を開催し、情報共有を進めた。	○	

## 保安防災・労働安全の数値目標と実績

		2018年			2019年	
		目標	評価基準	実績	目標	評価基準
保安 防災	国内	無事故	保安事故0件	9件	無事故	保安事故0件
	海外		保安事故0件	1件		

		2018年			2019年	
		目標	評価基準	実績	目標	評価基準
労働安全	国内	無災害	A、Bランク災害0件※1	0件	無災害	A、Bランク災害0件※1
	海外		A、Bランク災害0件※1	1件		
	国内		全労働災害度数率0.5以下※2	2.08		全労働災害度数率1.5以下※2
	海外		全労働災害度数率3.0以下※2	5.52		

※1 A、Bランク災害：当社独自の指標による労働災害評価ランクで、労働災害の深刻度を潜在的な障害程度と災害発生要因の不具合の度合いによりA、B、C、Dの4つにランク付けしている。A、Bランク災害は深刻な災害に位置づけられる。

※2 全労働災害度数率：医療処置を要する労働災害の労働時間百万時間当りの発生件数を表す。

## 保安防災

クラレグループでは、社会に対して甚大な影響を与える爆発、火災、有害物質の漏洩などの事故の未然防止を図ること、そして万が一事故が発生した際の被害を極小化することを重要な責任と考えています。そのため、保安防災に関するリスクアセスメントに継続的に取り組み、建築物・プラントの地震対策や津波対策、設備の保安管理システムの整備などの保安防災活動を推進しています。

特に、近年発生した他社の事故を契機として、運転立上げや停止、停電、断水、緊急停止といった非正常時のリスクアセスメントに注力しています。更に一步踏み込み、安全装置が故障した場合、ルールが守られない場合なども対象として、様々なリスクを抽出し、その対応策の検討を進めています。

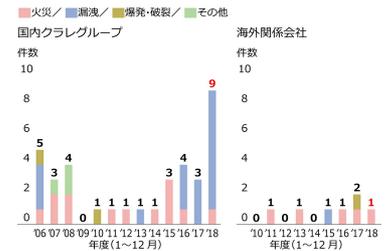
合わせて、異常の兆候検知のための危険感受性向上の教育や異常の判断基準の明確化にも取り組み、異常に対して迅速に対応し、事故に至る前に対処できる工夫や人材の育成に取り組んでいます。

また、万が一に備え、夜間休日、職場長の不在などを想定した訓練、無警告での訓練、外部の施設を利用した訓練、地域消防との共同訓練など、緊急時に対する様々な現場訓練を定期的実施しています。

外部機関による安全基盤と安全文化の評価にも取り組んでおり、より強化すべきポイントを把握してPDCAを回すことで、事故や災害の起こらない安全な会社をめざしていきます。

重大な事故が発生した場合には、社長をトップとする緊急対策本部を設け、速やかな対処・現場への支援ができる体制も整えています。2018年度は、事業所で火災が発生した事態を想定して全社の緊急対策本部訓練を行いました。事故の

保安事故件数の推移



際、地域・マスコミに適切な情報を提供できるよう、対外的な広報の場に立つ主要管理者を対象にメディアトレーニングも行なっています。

残念ながら2018年度は、国内で危険物の微少漏洩が8件と排気ダクトの小火災が1件、海外で人的被害を伴う運転立ち上げ中の火災が1件発生し、グループ全体での保安事故は10件となりました。これらの事故の再発防止を徹底して図り、引き続き保安防災活動に取り組み、事故の防止に努めていきます。

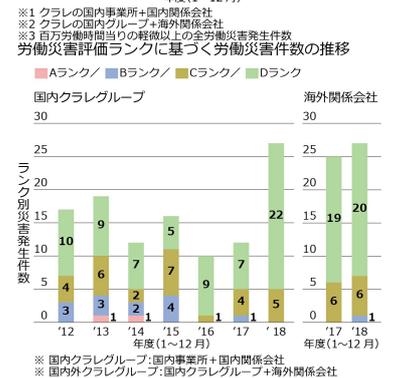
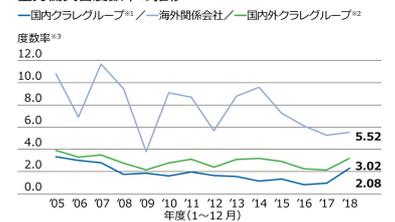
## 労働安全

クラレグループでは、社員の安全と健康の確保こそが企業活動の基本と認識し、労働安全マネジメントシステムの適切な運用を通じて、組織および社員一人ひとりの安全レベルの向上に努め、安全で災害のない職場を目指しています。安全に関する行動原則、行動方針をはじめとする全社の方針や活動項目などを基にして、各事業所・部署の特徴に合わせた方針・計画を立て、これに沿って部署毎に工夫を凝らして活動しています。安全活動の状況やその課題について、国内の各事業所・工場等で毎月開催される安全衛生委員会の中で労使一体となって討議し、「安心して働ける会社、事故や災害が起これない安全な会社」の実現に向けて取り組んでいます。

リスクアセスメント活動や設備の本質的な安全対策を通して、設備の不備による災害を減らす活動が進み、重篤な労働災害は減少してきました。しかし、個人の不用意や無意識の行動に起因する労働災害はまだ多く発生しています。このような災害を無くすため危険への感度を高める教育を推進しています。

2018年度は、全労働災害度数率が国内クラレグループで2.08、海外関係会社で5.52（グループ全体では3.02）となり、国内外とも悪化し、目標に対して大きく未達となりました。当社では、労災の深刻度をA～Dで評価する独自の指標を導入しており、より深刻な労災にあたるA及びBランクの労災の件数で目標を設定しています。そのA、Bランク災害件数では、国内グループはゼロを達成しましたが、海外関係会社では1件発生し、未達となりました。また、転倒、転落や激突など個人の不用意・無意識な行動による労災が多く発生しました。今回見いだされた課題も含めて取り組みを確実に進め、今後も安全で災害のない職場を目指して取り組んでいきます。

全労働災害度数率の推移



※1 クラレの国内事業所+国内関係会社  
※2 クラレの国内グループ+海外関係会社  
※3 百万労働時間当りの軽微以上の全労働災害発生件数  
労働災害評価ランクに基づく労働災害件数の推移

※ 国内クラレグループ: 国内事業所+国内関係会社  
※ 国内外クラレグループ: 国内クラレグループ+海外関係会社

## 労働災害評価

労働災害の分類の指標として、一般的には実際の傷害の程度による分類（死亡災害、休業

災害、不休業災害など）が用いられています。その中でも休業災害を基にした度数率が組織の安全レベルの評価や組織の安全の目標としてよく用いられます。しかし、この評価方法では、以下のような点から実際の安全レベルと乖離する場合がありますのが実状です。

- ① 傷害の程度は「偶然」に左右されやすい。
- ② 災害の発生要因が考慮されない。
- ③ (グローバルな管理に使用する場合) 国柄により傷害程度の判断が異なる。

そこで、当社独自の指標として、「偶然」の要素を除き、発生要因の評価を加えた新しい労働災害評価ランクを設定しました。実際に起きた傷害程度ではなく、労災が発生した事象に対して、それにより潜在的に起こり得た傷害程度を数値化しています。更に、災害発生要因の不具合の度合いを、人的、設備的、管理的要因に分けて点数化し、潜在的な傷害程度に加えることにより、A、B、C、Dの4段階にランク付けしています。

その結果、深刻と判断されるAランクとBランクの労働災害の発生件数を、その組織の安全レベルを評価する指標として利用可能になりました。

## Focus : 第1回環境安全グローバル会議開催

環境安全の理念・方針の共有とシナジーの発揮を期待して、アメリカ(KAI, MonoSol)、ドイツ(KEG)、ベルギー(EE)、シンガポール(KAP)、オーストラリア(Plantic)、韓国(Kuraray Korea)及び国内の環境安全部門の担当者が参加して第1回のグローバル会議を岡山事業所で開催しました。今回が初めての開催でしたが、夫々の安全活動の紹介及び活発な意見交換が行われ、良い情報共有の場となりました。次年度以降も開催をする予定です。



## 物流安全

クラレは物流事故による社会的被害を防止するため、製品の輸送、保管面での物流安全確保の活動を継続して実施しています。

この活動の中心となるクラレ物流安全協議会は18年目を迎え、2018年度は中央労働災害防止協会から講師を招いて「ヒューマンエラー対策実践セミナー」を開催し、また事故事例とその対策を参加各社(危険物輸送会社9社)で協議して、重大事故防止の施策を共有しました。引き続き重大事故発生ゼロを目標に、社内外関係各所と連携しながら、物流安全の維持・向上に努めます。

会社概要	事業から探す	基本方針	企業ステートメント	経営方針
ごあいさつ	製品名から探す	技術と製品	クラレグループ行動規範	IRニュース
企業ステートメント	キーワードから探す	組織・体制	クラレグループ人権方針	クラレって？
役員	製品のはてな	歴史	トップステートメント	業績・財務情報
組織図		トピックス	サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画	IRライブラリー
沿革			クラレグループのマテリアリティ	株式情報
主な受賞歴			Planet	IRカレンダー
主要グループ拠点			Product	よくあるご質問
会社案内動画			People	
テレビ番組動画			ガバナンス	
広告ギャラリー			GRIスタンダード対照表（内容索引）	
			クラレレポート（統合報告書） / サステナビリティウェブサイト	
			ランドセルは海を越えて	
			イニシアティブ	